



かけはし

教育目標

- 学び合う子
- つながり、支え合う子
- たかましい子



武蔵村山市立第九小学校 令和8年6月30日

W杯の森保一監督に学ぶ！「想定外も想定内」

校長 加藤 寛之

盛夏の候、保護者の皆様には、ご健勝のことと存じます。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、サッカーのワールドカップ（W杯）が、アメリカ、カナダ、メキシコの3カ国で開催されていますが、日本代表チームの活躍ぶりが連日報道され、ご覧になっている方も多いかと思います。一次リーグの初戦では、強豪のオランダ代表と対戦し、2度リードされながら追いつくという驚異の粘りで、大きな盛り上がりを見せています。試合後のインタビューで、森保一監督が（初戦の前には様々なアクシデントがあった中で）「想定外も想定内ということで、アクシデントも現実を乗り越えていこうということを選手たちが落ち着いて冷静にやってくれていると思う」と発言し、SNS等で指揮官のメンタリティに感銘を受けるユーザーが相次いでいるそうです。日本代表は、主力の三苫薫選手や南野拓実選手がけがのため代表から外れ、本番直前に主将の遠藤航選手が痛めていた左足のメディカル報告を受けて離脱と代表引退を発表し、最大の「想定外」に見舞われていました。想定外のことが多かっただけに、先制された時は崩れる展開が頭をよぎりましたが、本当に諦めずによく戦ってくれたとチームの底力を称える声が日本代表に多く寄せられています。

この「想定外も想定内」という言葉は、万が一の事態が起きても動揺せず、あらゆる可能性をあらかじめ視野に入れておくという、究極のリスクマネジメントと心構えを意味しています。

このような考え方を、日々の仕事、生活、趣味などに落とし込むことで、想定外のトラブルに直面しても冷静に対応できるようになると考えます。

具体的には、以下のようなアプローチが有効です。

○リスクの先回り

「もし～が起きたらどうなるか」を事前にシュミレーションしておく。

○コップを大きくする

想定のを広げ、どんな事態も「起こり得ること」として受け入れる。

○動揺をゼロにする

トラブル時に感情のブレをなくし、次の一手へ素早く切り替える。

「言うは易し、行うは難し」というように、実行するのはなかなか難しそうですが、あらゆる場面においてこの思考法をどのように活用していくかが、現代を生きる私たちの大きなヒントになりそうです。

学校現場に置き換えても、教室では日々「想定外」のことが起こり、先生方はその対応に追われていますが、森保監督から学び、落ち着いて対応できるようにしてまいります。

6月22日の全校朝会では、子供たちに世界の国々に興味をもってもらおうと、ワールドカップに出場する国の国旗クイズを行いました。開催国や日本の対戦国を中心に出题したのですが、今回は日本を含めて48カ国も出場しているため、大人も知らないような国もあります。超難問として出題した下の国旗は何という国か分かりますか。・・・正解は、カーボベルデという国です。アフリカの北西沖に浮かぶ島国で、滋賀県ほどの大きさです。人口は約60万人しかいないそうで、強豪国スペインやウルグアイと渡り合い、引き分けた戦いぶりは、鮮烈な驚きと感動を世界に与えました。

また、それぞれの国の国旗の色や柄にはその国の歴史的背景を基にした由来があります。子供たちには、その国の生活や文化にも興味をもって調べてみましょうと声をかけました。

ぜひ、ご家庭でも話題にしてみてください。

この国旗はどこの国でしょう？

